

The Native American



第五部

PHILIP J. DELORIA

Abstracted by Seiji Suzuki





Stan Jones, Sr., Tulalip族の酋長、が「Big Chief King Salmon」とよばれる、新しい漁の、最初の鮭の神の恵みを祈る儀式を取り仕切っている。 Tulalip 保護居留区、ワシントン州 (ca. 1986)

THE TWENTIETH CENTURY AND BEYOND

20世紀とその後

私は、清められ、そして、自由だ。
そして、私はあなたが私を無視するのを許しはしない。
私は貴方に贈り物を持ってきた。

ANNA LEE WALTERS, PAWNEE-OTOE
From I Have Bowed Before the Sun

CHAPTER 24	CHAPTER 25	CHAPTER 26	CHAPTER 27	CHAPTER 28
20世紀のインディアンであること	インディアンのニューディール	終 結	統 治 権	インディアンが私たちに教える事ができるもの
高級で、かつ、危険極まりない高度の高い所での、精巧な鉄鋼建築の極めて重要な仕事	いわゆるNew Deal以上に、この緊張と両面価値を上手く説明できる政策はほかにない。	部族からの代表達は、National Congress of American Indians (NCAI) を設立した。	健康とか、教育、経済的な発展、そして、資源の利用といった特殊な目的に焦点を当てた、国家的な組織を発展させていった	非実在的な“インディアン”が、そうした社会、精神性、そして、環境との調和のとれた相対関係を象徴化するためにやって来た。

20世紀のインディアンであること

1920年代に、Caughnawaga Mohawkの部族は、高級で、かつ、危険極まりない専門技術－摩天楼や橋梁の建設に置いて、高度の高い所での、精巧な鉄鋼建築の極めて重要な仕事を通して彼らの生活を確立していた。

ニューヨークでは、Mohawks族が、Waldorf-Astoria Hotel, the Empire State Building, the Chrysler Building, そして、the George Washington Bridgeと言ったものを含め、数えきれないほどの建設現場で働いていた。

彼らは、伝統とか、血族意識、そして、部族の強い結びつきを維持しながら、アメリカ社会のなかで、寄与している理想的な方法を見出した。

BrooklynとKahnawakeから来ているMohawks族の者達は彼らが、非インディアンで有る一組の弁護士を雇った共同基金を作った。Diaboの弁護士は、彼は、事実、カナダ人ではなく、Mohawk人で、国境をまたいで“行き来し、商売をする”という彼の権利は、1794年のJay 協約により確立されたもので、1796年の協定、そして、1812年の戦争の終結時に署名されたTreaty of Ghentで確認されたものであると主張した。



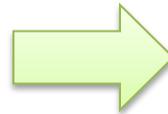
プエブロの証券取引所での演奏

プエブロのインディアン達のグループが、ニューメキシコの上院議員Holm Bursumにより導入された法律に対しての彼らの奮闘の支援を模索して、New York Stock Exchange を訪問し、羽根飾りのついた頭かぶり、毛布、そして、ビーズの飾りのついたモカシンをつけて、集まった証券ブローカーたちのために歌を歌い、そして、太鼓を叩いた。

取引はでたらめに進み、その人達は、会議の事務所を議案の無効を強調する電報でみなぎらせた。

プエブロの人達がニューヨークで踊りをしたときに、最も重要な取引が、文化的なものとなり、そして、象徴的なものとなった。そのことを理解するために、われわれは、“**象徴としてのインディアン**”が、この大陸に新しく入ってきた人たちとアメリカの土着の人々との間の延々と続く相互関係の中で演じてきた、注目すべきさまざまな役割を認識する必要がある。

Frederic Jackson Turner



象徴としてのインディアン

アメリカの社会と性質は、辺境地の開拓の基盤の上にできたものだ。ここで、アメリカ人は彼ら自身のもともとの根源に戻ったのだ、彼らのヨーロッパ人としての背景と歴史を捨て、そして、自分達自身を田舎の民主主義を实践するものに変身させたのだ

象徴としてのインディアン



“インディアン”に対する様々な誤解が、アメリカ人の考えの重要な場所を長い間満たしてきた。例えば、**ビューリタンは、彼らは神により選ばれた物であり、そして、彼らがしたように信じない人達は全て悪魔の子供達である**と言う概念で、思考武装されて新しい土地にやってきた。かれらはインディアン達を、**彼ら自身の信仰に適合させる、引き立て役になるもの**と見ていた。

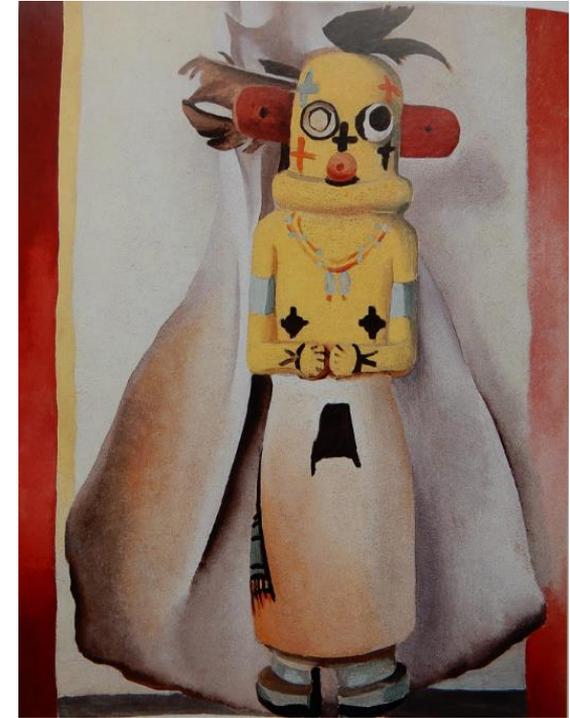
後に、大英帝国に対する反抗の間、多くの植民者達は、もっと積極的“インディアン”のイメージをこしらえ上げた。インディアン達は、現在、アメリカ大陸を象徴しており、そして、それらの全てが、—自由と、独立、そして、英国ではない、ものとしてそびえている。このインディアンのもっと同情的な革命的なイメージが、真実のインディアンの人々とともにある新しい国の中にしっかりと反映された。

19世紀の初めまでに、新しいアメリカ人たちは、インディアンは、アメリカ人の“市民”である前に、自然に、そして、不可逆的に消えていったと信ずるようになった。その“消えたインディアン”が、不可解な真実のための都合の良い覆いを用意した：消えたというほとんどのインディアンは、冷え切った血のアメリカ人の拡大の直接的な結果だったのだ。

現代的なアメリカ人が、“大自然の中の子供達”と会う

Taos

20世紀に入り、最初の10年に、著作者や芸術家がニューメキシコの北部のプエブロの国を含めた様々な田舎の集落の中に聖域を求めて、幾つかの町を安全にと逃げてまわった。



征服することを正当化するために、19世紀の殆どの間、不信な野蛮人として描写されてきたインディアン達は、一般的に、今や、神秘的なアメリカ人の過去、つまり、工業化や現代的な生活の急激な流れに対抗して並列されてきた容易な過度の単純化の積極的な象徴となって来た。

1887

Dowes 協定



保護居留区

インディアンの人達は、文学的、ならびに、文化的のどちらのも形でも姿を消したのではなく、しかし、連邦政府は、人達にかれら自身の割り当てられた土地の場所に指定して、そして、そこで彼らを農民として教え込み、こうして、部族の人達とは外に居る“個々人”を作り出そうとした、共同土地所有に分離していくことで、この過程のなかで支援することができると推測していた。



1920年の時代になり、現代的な都市生活の状況を見ていた人達の迷いを覚ました様な、白人アメリカ人の知識人は、Dowes協定にもとづいて連邦政府の政策の30年を変化させ始めた。

Pueblo Land 訴訟



これに反撥

Bursumの1922の制定法は、非インディアンの主張者達の土地の権利、非インディアンの水利権、そして、拡張された、政治的に自治の認められたプエブロを一掃するような連邦政府の司法権、こうしたものを正当化しようとしたのだろう。



Mabel Dodge Luhan, photographed in Taos around 1917.

John Collier

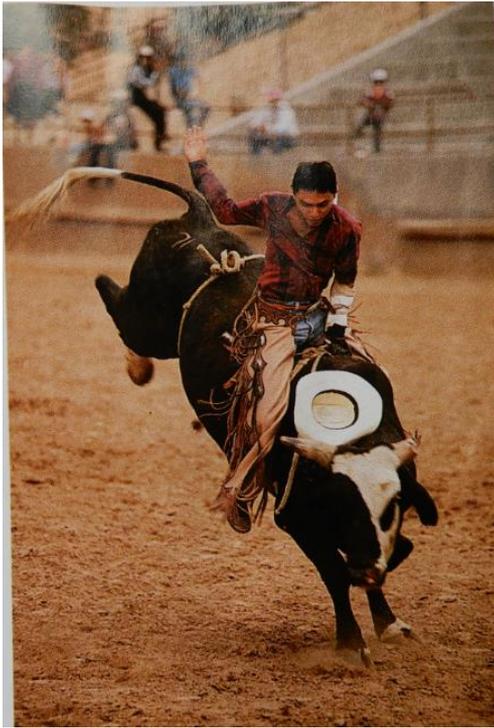
Bursumの提訴を打ち破り、そして、より公正な立法上の妥協

インディアンの事件の歴史の中で最も重要な人物の一人、John Collierを生んだ。彼は、改革者のアトランタ市長の息子で、Collierは、第一次世界大戦の勃発と、それに続いた進歩党の動きにより水を差されるまで、ニューヨークで都市移住者のためのプログラムを展開していた



衣装は、着ている人の個人的なアイデンティティと、彼、もしくは、彼女の生活の文化的な位置づけをしている。多くの大平原の社会では、鷲の羽根の頭かぶりは、当初、勇敢な行いと社会での奉仕の積み上げられた実績を表していた。

左 Ruth Muskrat Bronson, Cherokee
彼女が、インディアンの行事の状況を大統領に報告書を差し出す派遣団の団員として、1923年にホワイトハウスを訪問した時に撮った写真



部族同士のインディアンの儀式が、70年以上も、ニューメキシコのGallupで毎年開かれていた。そうしたイベントには、パウワウ、ロデオ、パレード、マラソン、クィーンコンテスト、市場、そして、芸術の披露などが含まれている。

原住民の人達が、彼ら自身が現代的な世界に入っていくと、彼らは、それが、そうした世界でインディアンで有る事が意味していることを改めて考え直した。自分達自身で定義する彼ら自身の過程を進めながら、その間に、インディアンは、非-インディアンの人達に、インディアンであるということの意味するものをもっと完璧で、かつ、複雑な理解を発展させていくようにしようともしていた。



この自己定義の過程は、しばしば、インディアンの人達を、どのようなことかが、非-インディアンの“アメリカ人”のすることなのか—賃金労働、政治の問題、マスメディアのこと、芸術や文学、その他のもの、こうしたものを認識することを通して、白人アメリカ人と渡り合うようにさせた。ほとんどの場合において、こうした活動でのインディアンの関与は、アメリカ人の文化への“同化”を意味するものではない。



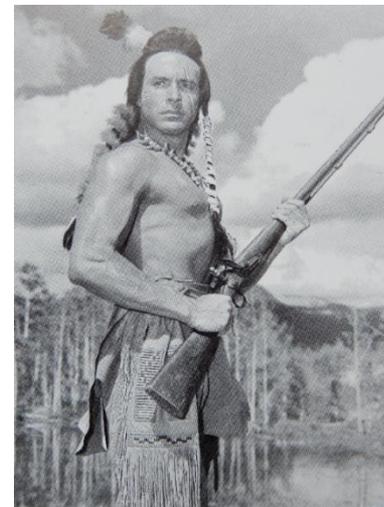
むしろ、こうした“アメリカ人”の行いが、それら自身が同化であった—非インディアンの人達と接触する原住民の人達のように、絶えず改造している生活の中のインディアンの文化に取り入れられて行くのであった。

進行する苦悩

もし、彼らが変われば、われらの文化は混ぜられたものとみとめられ、彼らの“インディアンらしさ”を失うだろう。もし、彼らが変わらないのであれば、彼らはインディアンとして残るが、しかし、彼らは、現代の世界で現実的な存在を拒絶されるだろう。



映画の製作者のThomas InceがLuther Standing Bear、ならびに、そのほかのスー族の者と一緒に、カリフォルニアのIncevilleにある彼のスタジオでポーズをとっている。



Across the Wide Missouri (1951)のなかのインディアン戦士役のRicardo Montalban



Suzan Ballと一緒にVictor Mature
スー族の酋長Crazy Horse (1954)
の役を演じている。

変革と生活の文化

インディアンの文化—全ての文化のように—それが変化し、適合したように、それらは、また、威圧的なアメリカの政策と議論を戦わさなければならなかった。

The Bureau of Indian Affairs (BIA)

分配の弊害であると認識していたにも関わらず、分配の特許証を発行し続け、そして、インディアンの人達は、彼らの土地の管理を失い続けていた。

アリゾナ州

政府の代理人が、ナバホの人は、決して利用することのない道に橋を架けるプロジェクトの基金にするために、ナバホの部族の基金のなかに手を入れてきた。

モンタナ州

Indian Affairsの委員が、部族に相談する様に面倒なことをせずに、強力な会社とFlathead族の土地を開発する協約を結んだ

ネバダ州

水利権の裁判が、連邦政府の弁護士により無視され、待機状態になっており、その一方で非インディアンの人達が西部での水利権を主張していた。

INDIAN IN SPORTS



ロ野球はしばしば大学の出身者を避け、直接、保護居留区から採用していた。John Meyers (Cahuilla), Louis Sockalexis (Penobscot), そして、Charles “Chief” Bender (Chippewa) –かれらは、Baseball Hall of Fame (野球殿堂) のメンバーである

1916年の
New York
Giantsの春
のキャンプ
でのJim
Thorpe



1991年のフットボールゲームでの Red Cloud High School Crusaders

インディアンのニューディール



Blackfeetの酋長のBird Rattlerと一緒にFranklin D. Roosevelt モンタナで (1934)

20世紀におけるインディアンとしての其れ自身の定義づけは、統治と、アメリカ文化の魅力、そして、自分自身伝統の抵抗と反発の間に、はっきりしとして筋道を歩いていくということを意味していた。多分、Franklin Delano Rooseveltの執行により、1930に始められた、大きなNew Dealの改善活動の内容である、いわゆるNew Deal以上に、この緊張と両面価値を上手く説明できる政策はほかにない。引き続いて起こるNew Dealの政策的な移行、政治的、合法的、そして、経済的な新制度が、原住民アメリカ人の社会を今日の時代に研ぎ済ませた。

Klamathの評議委員会

1920年代の中ごろには、BIAの能率の上がらない、父親的な温情主義的管轄により、挫折され、オレゴン州の多くのKlamath族の者が、極めてより大きな政治的、かつ、経済的な希望を追求した。

Wade CrawfordとKlamaths族



彼らの土地を、保護居留区を連邦政府が免許を与えた会社に移管することによりKlamath族の人達に返還するという管理にもどすような提案を議会に申し入れした。全ての個人的な、そして、部族の財産が、その会社に所轄されるようになり、組員たちが、その集団外の人には誰にも移管することが出来ないような株を発行されるようになったのだろう。Crawfordは、その会社が合衆国の課税がかからず、そして、管理が及ばない自由である合衆国との協約の期間が50年となる様に求めた。

→ Klamaths 族の資源を管理するようになった

議会は、一般的に、BIAを非常に費用がかさみ、そして、役に立たない役所としてさげすんでいたが、Klamathの提案を支援する態度に傾けられていた。それは、現代の社会で成功するかもしれない部族の自立のためのモデルであると理解していたJohn Collierでもあった。

Meriam Report

報告書は、分配が、インディアンの土地の喪失に終わったばかりでなく、巨大なインディアン局の創設で終わったという、ぶざまな失敗であったことを見つけた。その報告書は土地の買戻し、部族のための増大された基金、そして、自然の資源をよりうまく管理するための—Klamathにより提案されたような一部族の会社の創設を勧告した。しかしながら、その実行は、極めて賢明な一回りがしたあと、Bureau of Indian Affairsの委員として、John Collierを指名したFranklin D. Rooseveltの選出された1932年まで待たなければならなかった。Collierは、ついに、彼の改革を実行するように権力を与えられたように見えた。

Indian New Deal は、同様にそれ自身の内部の不両立に苦しんでいた。結果として、プログラムはインディアンの人達、議会、そして、その他の政府の代理人たちと対立することとなった。恐らく、New Dealのなかでもっともはげしい論争が、アリゾナのDinah (Navajo) で行われた。

John Collier

Collierは、我々の意味深長な生活、我々の文化的な生活、とりわけ、芸術や信仰を進んで支持し、祝福し、そして、誇りを持っていた。まさしく、と同時に、彼はまた、主権と言った様なもっと基本的な自由、そして、部族の統治を、連邦政府の手中に、進んで委ねようとしていた。

—ALFONSO ORTIZ

(San Juan Pueblo), 1986

New Dealの実行管理は、ナバホ族の羊やヤギの
に対して、正面から立ち向かった状況は全く恥ずべきものであった

1930年代の、大平原中を荒らしまわった雷が侵食をおこした膨大な埃の嵐がNew Dealの
付きまとして離れることのない固定観念のひとつ一つをコントロールしている。他のNew
Dealを行う者達はダム建設や水路の開拓に、同様に強力な執着をしていた。ナバホ保
護居留区の西部地域では、コロラド川のボールダーダム（フーバーダムの旧名）がこう
した二つの利益と結びつけ、そして、ナバホ族の放牧に対する非難の状況を提供した。

ダムの貯水地に対して最も恐怖となるものはヘドロであり、コロラド川は、ナバホ保護居
留区から流れ込んでいる支流から、そうしたものの数トンを受け入れている。ダムにたまった
ヘドロと、カンザス州とオクラホマ州にかけての広大な部分を占める地域の空を曇らせて
いる微粒子の埃という、何の役にも立たない観点に付きまといわれて、BIA、並びに、
Department of Agriculture's Soil Erosion Serviceの管理者達は、ナバホ族の飼っている
家畜の量を減らそうということに努力をしないという訳にはいかなかった。

Rapit Cityの会合

Collierのカリスマ性、誠実性、そして、イン
ディアンの人達に対する尊敬の念が、最終的には、
多くの支持者を味方に引き入れ、会合は、イン
ディアンの子孫たちの多様性、複雑化、そして、
深さを証明した。

Senecaの領域の統治権

1794年にGeorge Washingtonが署名したCanandaigua協定により、認められ、
そして、保証された。1848年に、部族は、選挙による自治政府を作り上げた。

ALICE JEMISON

外部の政治的な枠組みの押しつけ

3つの主要な独創力が、Indian New Dealとなるために、議会より精査と書き直しの復活させた。

Johnson-O'Malley 条項 1934

インディアンの共同体に対して連邦政府の経済的信用を与え、部族が独自に健康管理とBIAにより以前に提案されたそのほかの奉仕の契約をすることを認めた。2~3ヶ月後に、Indian Reorganization 条項が正式に部族との無期限に連邦政府の信用関係を拡張した、剰余分として買い上げられた部族の土地を復活させた、そして、インディアンの共同体ように、土地の買い取りのため、あらかじめ準備していた対策を設定したDawesの分配政策を終了させた

Indian Reorganization 条項

Klamathの例に続いて、IRAは、また、部族が書面での憲法（しかしながら、内務省の長官の承諾に対する主題）を設定することを認め、これを奨励し、それが、部族に対する経済的な発展の貸付を進める基金を創設した。

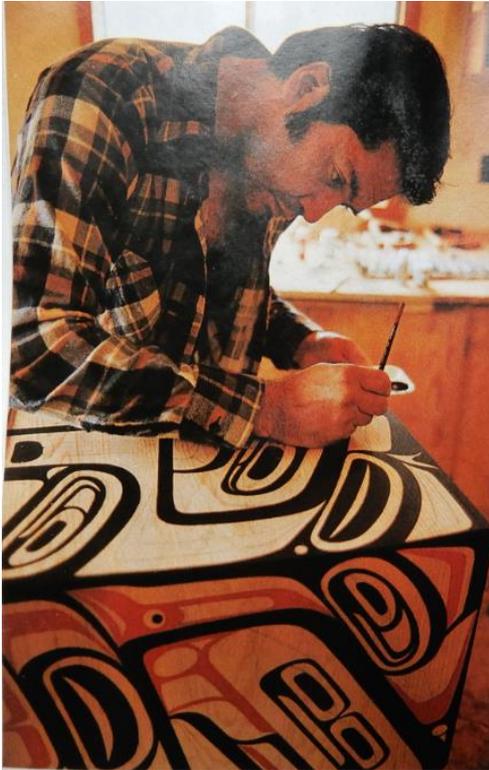
Dawesの分配政策の終了

Oglalaの投票

部族の間での不快分裂を表し、そして、より強いものにした。

New Deal の多義性： 芸術と工芸

Indian Arts and Craft Boardは、インディアンの人達のさらなる付加的な収入源を作るためのインディアン達の手工芸品の生産を促進させる支援をした。



彫刻された小箱を装飾しているワシントン州リSkokomosh
インディアン（1990）



Brooks Range, Alaskaからのエスキモーの女が
カリブーの皮膚で作った面に飾りをつけている。
（1988）こうした面は、だいたい100位前から
作られており、“伝統的な”ものではない。

終結

1944年の11月に、Denverの町が、“アメリカ人にBig Feather酋長は、いい奴だと告げること”というDenver紙の言葉のもとに、集まった80人のインディアン達を迎えた。

50以上の部族からの代表達

NCAI: National Congress of American Indians を設立

Napoleon Johnson・・・この会の目的は

“インディアンの指導者は、連邦政府の政策の公式化に貢献しなければならない、そして、インディアン達が必要としているものを調査し、こうした必要なものを声にして出さなければならない。”

Indian New Dealは、部族に、政治的な声を提供はしたけれども、それは、極地方の、特別に残っているような要求であった。原住民の人達は、地方の議会を運営し、特殊な部族と連邦政府の相互関係を取り扱うのに必要な政治的な能力を発展させていた。しかしながら、部族間の政治的な同盟の可能性は、殆ど試みられることはなかった。

Ruth Muskrat Bronson



Calvin Coolidge大統領とRuth Muskrat Bronson (1925)

第二次世界大戦でのインディアンの経験

第45海軍師団は、“サンダーバード”と呼ばれた師団 約1/5は、原住民のアメリカ人だった。1943年の6月から1945年の春に、その師団は、511日間の戦闘を経験した。彼らは、北アフリカからイタリア、フランス南部を通り、Ardennesの森まで、戦争の最悪の戦闘の多くと出会いながら戦った。



戦争のなかでの努力で、インディアンの寄与が最も身近な例であるのは、ナバホ語の暗号通信士

暗号文を作ったり、解読するために原住民の言語の話し手を使ってはいた—オネイダ族、チプワ族、ソーク並びにフォックス族、そして、コマンチ族などが、軍の通信部で働いていた。



戦後：

インディアンを“アメリカ人”にすること

第二次世界大戦のあと、アメリカ人達は、幸福であり、純粋なアメリカの深刻な人種的、あるいは、文化的な部門における欠陥の妄想が花を咲かせた。



1946年に、議会が、インディアンの主張を解決するための委員会を設置して、新しい“終結”の政策の実行を始めた。

1946年にClaims Commissionを承認する時まで

1933年に、Indian New Dealは、他のアメリカ人たちに喜ばれるような、インディアン達に同様の法的な権利を与える提案を取り上げた。

バスの乗車券の発行

再配置は

戦時の自由のある経験のあと、アメリカ人たちの戦争前の差別主義への逆戻りは、多くのインディアン達の自尊心を二重に苦しめるようになり、そして、インディアン達の国の圧迫感を新しい水準まで引き上げて行った。

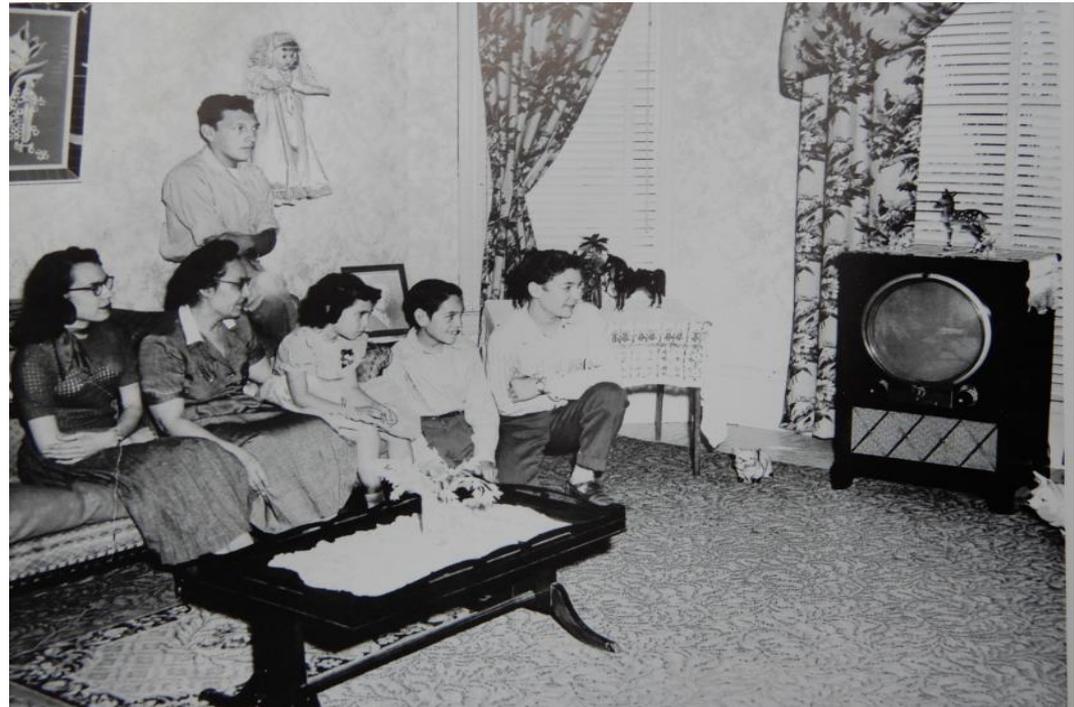
議会は、正式には、House Concurrent Resolution 108とPublic Law 280を通して、1953年の終結政策を実行した。終結は、“インディアンの問題”を身分的な地位の問題に切り替えたかった。



Chippewa 族の家族が カリフォルニアの Oakland の家でテレビを見てくつろいでいる。
(1955)

このような家族は、住宅街に住むインディアンの白人的な考えを表現しているが、他の強制的に彼らの故郷を後にして、アメリカ人達の住宅街の中心に移って行った人達が経験した様な文化の喪失の影響については殆ど何も話していなかった。

1991年の夏に、Windows Rockで、全てのナバホ族の復員兵士の榮譽を称え、Desert Storm 作戦からのナバホ兵士の帰還を歓迎する特別戦士の祝賀会が開かれた。これは、パレードが始まるのを待っている第二次世界大戦でのナバホ暗号隊員の集団





Fort Berthold Indian Tribal Business Councilの会長のGeorge Gilletteが、国務省の長官のJ.A. krugが、ノースダコタの保護居留区の最良の土地155,000エーカーを、Garrison Land and Reservoir Projectのために政府に販売することを確定する契約に署名している時に涙ぐんでいる。この売却について、Gilletteは、“部族の会議の議員たちが、重い面持ちでこの契約に署名している……今では、未来は我々にとって、そう、良くなるようには見えない。”と言っていた。

統治権



National Council of American Indiansの基金と、終結に対する戦いの国家的な視野は、アメリカの政治におけるインディアンへの寄与の発展における最初の指標となるものの一つを記した。



部族の指導者達が、NCAIで普通とともに働くようになると、彼らは、健康とか、教育、経済的な発展、そして、資源の利用といった様な、もっと特殊な目的に焦点を当てた、そのほかの国家的な組織を発展させていった。

1959年

法律がアラスカに州であることの地位を与え、そして、州に対して連邦政府の土地の103百万エーカーを選定することを認めた

州の大部分に対するIndian Claims Commissionの土地所有の主張を提起
1966年に、国務長官に土地所有の論争が解決するまで、州の土地の選択を凍結状態にするように説得

Trans-Alaska パイプライン、をその途中で終結させ、停止させた

1966年

Alaska Federation of Natives (AFN) の結成

南アラスカのハイダ族やトリンギット族

80,000人の、全く共通点のない興味を持ったアラスカ原住民の人達と、純粹に生活の糧としている狩猟や漁から、純粹な都市の賃金労働に至るまでの経済とを統一した

1971年

ANCSA



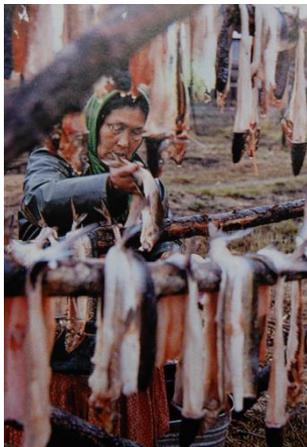
Native Claims Settlement Act (ANCSA)



Alaskalにおける原住民の土地所有

ANCSAのもとで、原住民は、彼らが、合衆国の中で最も大きな個人的な土地所有者となるように、\$962.5百万と、44百万エーカーの土地を与えられた。

ANCSAは原住民の土地の所有を選択することを任務とした13の地方の、利益目的の会社を創設した。こうした会社は、16百万エーカーの土地の完全な表題と、そして、残された土地の地下の権利を保有し、そして、個々人、ならびに、200以上の田舎の会社の、示談金、ならびに、利益の道を切り開いた。



北アラスカのKobuk川の村から来た女が、屋外の格子にロウソクウオを干している



ワシントン州のTaholah近くでQuinault族の男が鮭を捕まえている。(1981) 刺し網の伝統的な漁法が白人と接触する以前から使われていた。

1970年

Richard Nixon



“民族自決”

正式に終結、を拒絶することで、この発展を認識し、政策－インディアンへの抵抗と政治的な行動に対する感謝－は、1950年代の終わり以来、ゆっくりと消滅に向かって減びていった（メミニ族は、1974年に、彼らの終結の条項の取り消しを勝ち取ることに成功した）。

終結の代わりに、Nixonは、新しい政策－“民族自決”を支援した。

インディアンの指導者たちは、多くの保護居留区でのより大きな自治権を設定し、連邦政府の政策にもっと権力をゆだねることを推進してきた。しかしながら、この自治権は、すべからず連邦政府の予算の有効性にかかっていた。

物質的な利益は別にして、部族と政府との間の次第に増大していく複雑化した政策上の相互関係が、こうした人々に、植民地的な従属性の不確かな屈辱性を与えるような問題を突き当てた。



アルカトラズー偉大なる白人に対する声明……

REMAKING THE CULTURE



Sun Dance の場所 モンタナ州 (1986)



アパッチ族の日の出のお祝い。彼女の初潮の時に家族により若い少女に与えられた霊的な祝福の贈りもの。この儀式は、通常、自然の世界が満開になると合致している夏に行われた。

しかしながら、多くのインディアン達にとって、“古い時代”の再主張は、また、“あたらしさ”を拒絶することをも意味していた。

新しい政治的な試み

1961年の初めの頃、National Indian Youth Council(NIYC)の形態とともに、やって来た。

1961年

NIYC

ワシントン州における一連の恒久的に継続する“漁業権”、これは、協定での漁の権利の同情心のない長い間の抄本に対する大衆の抗議であるが、これに参加した。

1968年

American Indian Movement(AIM)

ミネアポリス

警察の残忍な取扱いを報道機関の証拠とするために、街をパトロールしていた。

1969年

“Indian of All Nations”

アルカトラズ島での反乱

使用されない連邦政府の資産は、保護居留区の地位に戻されるべきだ

*Wounded Knee*の乗っ取り事件

1972年

BIAへのり “Trail of Broken Treaties”

国中の原住民の人達が、政府が協定の相互関係を改め、そして、協定中の権利を尊重することを得心させると言う希望を抱いてワシントンに車で集まった。

しかしながら、デモンストレーションはBIAの乗っ取り
— 政府による代替的に扇動された行動、により台無しにされた

The Twenty Points

記録の中に要約されたインディアン達の思想的な基盤は、失われた。

それが扱われてきた数年の間に、インディアンの人達は、度々、議会や裁判所に向いて、政府の管理者達が、協定の責任を取り上げ、インディアンの統治への権利を批准するようにしてきたので、それがインディアンの考えの正しい指標であることを証明した。

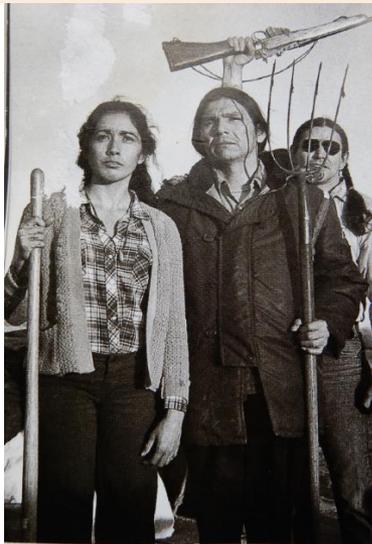
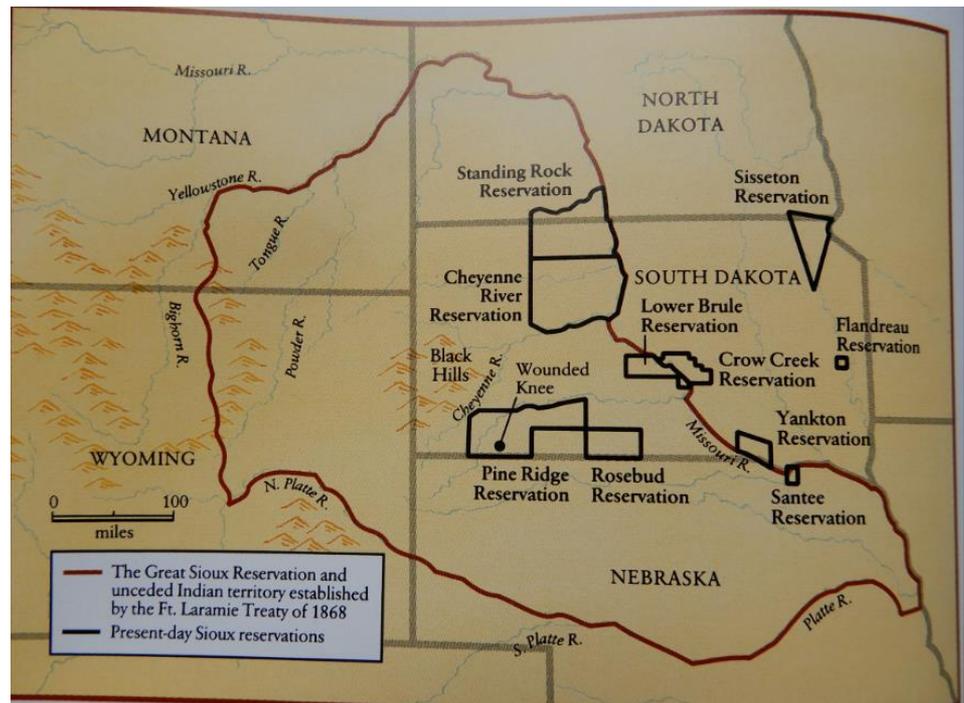
1973年

*Wounded Knee*の乗っ取り事件

American Indian Movementからの国の政治活動家と地方のOglala Lakotaの人達が、サウスダコタのWounded Kneeの保護居留区にある取引所とカソリックの教会を差し押さえた。

Wounded Kneeの乗っ取り事件

1868年のFort Laramie協定に応じたGreat Sioux族の保護居留区と、現在のSioux族の保護居留区。Wounded Kneeの乗っ取りは、もともと部族の行政の政策に基づいて行われたものだが、占領者たちは、協定がその地域におけるスー族の政治的な統治権を承認したと議論をし、境界線の問題を持ち上げた。これが、1868年の協定に基づいた積年の土地主張の闘争へと注目を呼び、合衆国がスー属の内部的な政策に違反しているとかれらに言わしめた。



Wounded Kneeでの American Indian Movementのメンバー、1973年春



インディアン法の役割

1971年

Michigan Department of Natural Resources



もはや、州の動物たち獲物の法律を遵守させることにおいて、インディアンと非インディアンの間を明確に区別するものはないと、宣告した

Chippewa族は、いかなるアメリカ政府の干渉もなしに彼ら自身の漁業を管理する権利を保持していた。……が、非インディアン達が、“保護”の政治的な正しさの旗印のもとに結集し、Chippewa族の漁師たちを、“環境を略奪している”と、告発した。

白人達の巻き返し

Interstate Congress for Equal Right and Responsibilities

インディアンの人達に対して与えられた“特別な特権”と認められたものと戦うために団結

7年間が経ち、連邦裁判所が、州はChippewa族の漁を制限する権利は持っていないとの裁定

トラブルだらけ

アメリカ人は、1980年代を“彼ら自身を理解する”ことにゆだねた

Reagan政権の社会福祉予算の大幅に削減する攻撃

Carter 政権 インディアン予算が、連邦政府の予算の 0.04%



インディアン達に、多分、回復するだろう“個人事業”の方に移るように指示していた



1980年にPassamaquoddy 族とPenobscot族はそれぞれ、メイン州に欠ける12百万エーカー以上の土地に裂いての彼らの主張に決着をつけるために、\$40.3百万のお金を受け取った。しかしながら、このお金を単純に部族の者達に配分するというのではなく、部族は、より複雑なビジネスと投資の計画を創設した。

合衆国でもっとも大きな資金を準備して、部族は、経済的と言うばかりでなく、社会的、そして、政治的な対象についても合致するようなビジネスの機会を追求した。

PENOBSCOTS

投資—保護居留区の中にアイスホッケーのアリーナ、そして、オーディオやビデオカセットを生産する投機的事業など—をしたが、期待するほどうまくはいかなかった。

PASSAMAQUODDIES

メイン州の三番目に大きいブルーベリーの農場を購入し、二年足らずで彼らの投資を回収した。彼らは、二つのラジオ局を買収し、1983年には、ニューイングランドで唯一のセメント工場を購入した。5年後にこの工場を彼らが売却

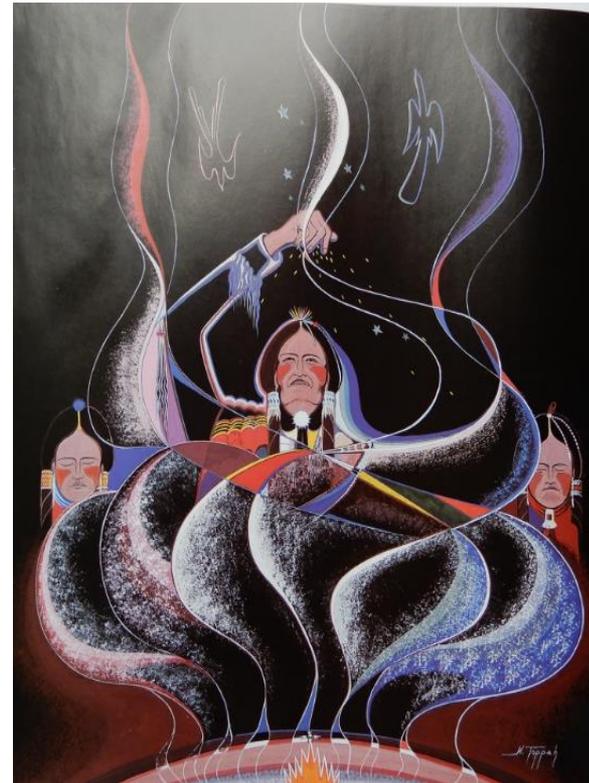
1978年

American Indian Religious Freedom Act

“**アメリカインディアン達のために**、かれらの生来の権利である、信仰の自由を、表現の自由、そして、[かれらの]伝統的な宗教の執行、その場所に行く事を制限せず、神聖なる対象を使い、保有する制限をせず、そして、礼式的であり、伝統的な習慣の通した崇拝の自由を制限しない、そうしたことを保護し、保存することが、合衆国の政策である。”



サウスダコタ州のRoaebud 保護居留区にある、ブルーレ・スー族のPeter Swift Hawkの家の中



Peyote の儀式 by Herman (kiowa)



祈禱師—Peyote の儀式 by Cecil Murdock (kickapoo), 1946.

Lyng v. Northwest Indian Cemetery Protective Association (1988)

インディアンの神聖な場所は、その場所の破壊が、宗教はもはや行われなくなったら、その宗教の場を保護はしない、

Department of Human Resources of Oregon v. Smith

“war on drugs”

インディアンの、“伝統的な”宗教を、First Amendment (第一次修正案)と1978年の条項のもとで実行するインディアンの権利に対し、直接攻撃をした。



多くの保護居留区での失業率は70～90%。犯罪行為、芸術の破壊、家庭内暴力—絶望的な状態の個々人の兆候—こうしたものが高じて行った。

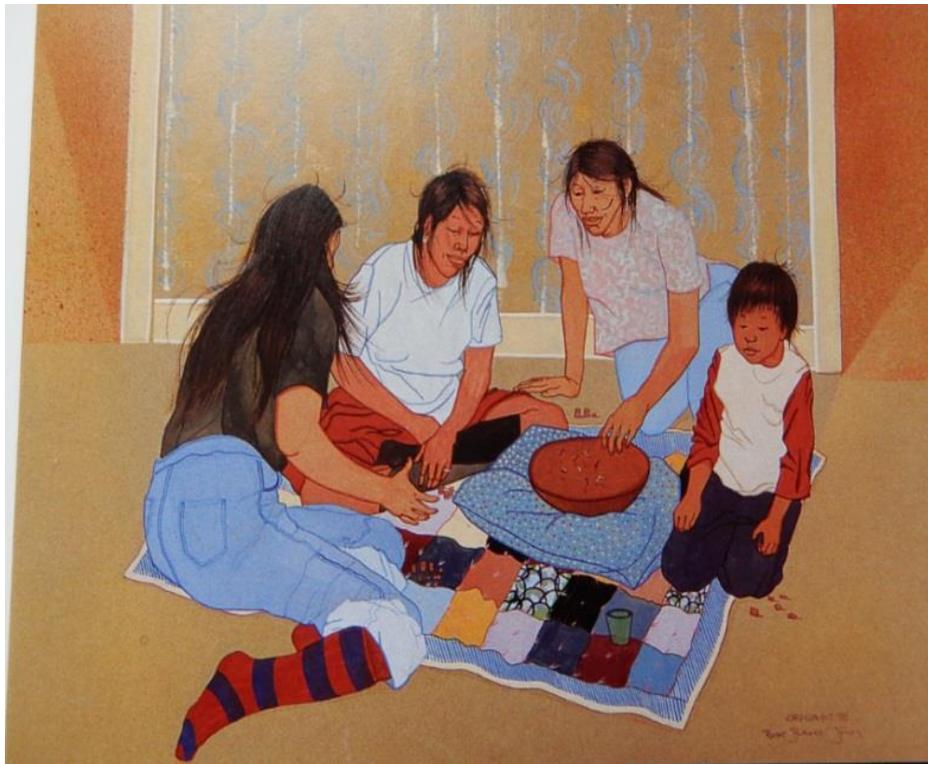
多分、最も傷を付けたものは古い天罰、アルコールであった

胎児のアルコール症候群
AIDSの可能性

部族の主体性の変化の基盤

レーガンとブッシュ政権にとって、“民族自決”、そして、“統治権”は、インディアン達を懐柔するために使われた、まったくもってもったいぶった感じの語句であり、そして、単に、部族は、ごみの処理や資源の採取のために適当な協約に署名して、“自分達自身で自分たちの面倒をみる”、べきだという事を意味しているにすぎなかった。

1988年のIndian Gaming Actが、Public law280、ならびに、州の法律に結びついたインディアンの自主性の中でのそのほかの前例を引き継ぎ、こうして再び脚光を浴びて、統治権あるいは民族性により造りだされた矛盾が、連邦政府、管理に対立するにつれて州に対して頼るようになった。



沢山の保護居留区でのゲームは、インディアンと非インディアンの人達に仕事を提供し、連邦政府の福祉の役割を減少させ、そして、部族の議会に、財政的な刺激を与えた。

統治権の追求



アメリカの社会の政治的な範囲の中で、統治権を持った国であるとは何を意味しているのだろうか？

政府がインディアンの人達に対して協定の責務として宣誓した者はなんなのか？

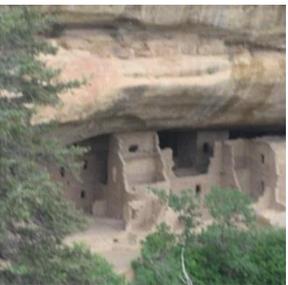
外部の責務に頼っていても、それは、主権を持っているといえるだろうか？

インディアン達は、大きな国のかれらの過去よりもずっと優位な状況の中で、実現できる現代的な統治権の考え方を明瞭に表し、展開する努力をしている。

インディアンの人達は疲れ切ってしまった。にも拘わらず、彼らは生き返り、新しい社会、政治、そして、以前の文化遺産の外にある精神的なよりどころを造りだした。



以前、天然痘や、流行性の風邪がインディアンの人達を恐怖に陥れたところで、現在では、AIDS、アルコール中毒、胎児のアルコール症候群、そして、糖尿病が保護居留区、そして、都市部での住宅地を苦しめている。



NUNAVUT AND CANADA



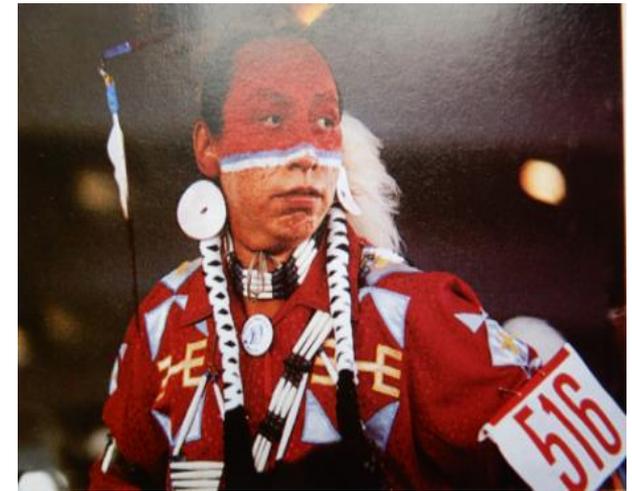
1991年になり、カナダ人とイヌイットの指導者達は、Northeast Canada に新しい領地を作る事により800,000平方マイルのイヌイットの主張を解決するために合意した時の彼らの関係をさらに前進させる歩みを取った。いわゆる、Nunavutで、これは、イヌイットの言葉で“私たちの故郷”と言う意味である

重要であるのは、イヌイットは全土に渡って、この領域の行政の監理をすることである。

体験と儀式と、そして、信仰を表現する手段としてダンスは、最も古いインディアンの芸術の一つである。育っていく伝統の中で、合衆国中からの部族のメンバーがダンスをするために集まって、毎年のパウワウで競っている。



モンタナでのRocky Boyのパウワウでの男の愉快的な踊り手たち



モンタナのBelknapでのMilk River Daysでの伝統的な踊り手



オクラホマのTahlequahでのチェロキーでの髪の毛が縮れていない踊り手が鬘の頭飾りを直している。



1990年にBoise開かれた、全インディアンアイダホ博覧会でのダンサー



鷲のダンサー（1990）



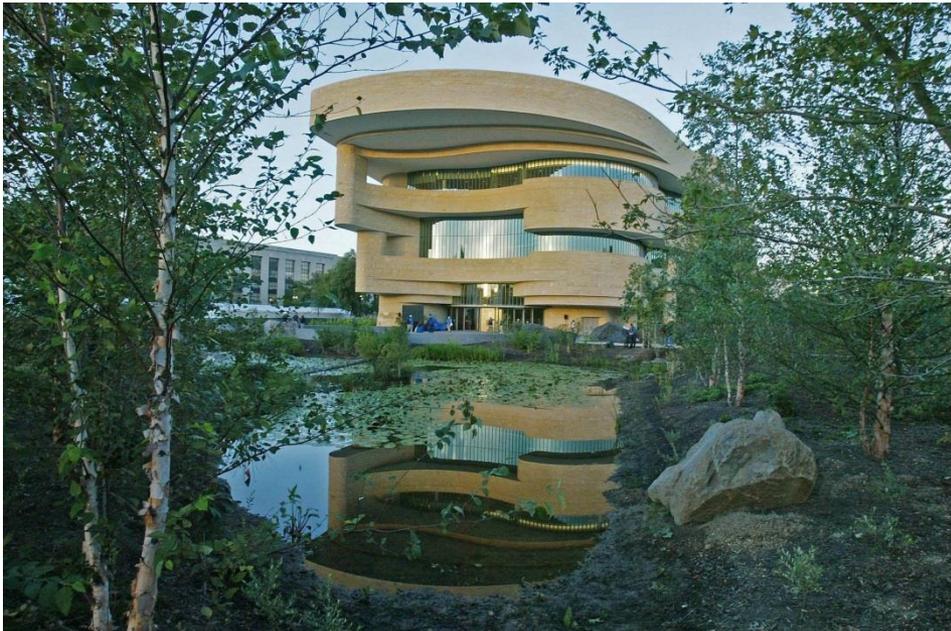
ドリームキャッチャーと
鷺の使い手 (1986)



インディアンの人達は、瀕死の状態にある言語の生き残りを必死に試みている。

THE SMITHSONIAN NATIONAL MUSEUM OF THE AMERICAN INDIAN

博物館は、おそらく、インディアンと非インディアンが、異国情調の者としての彼らの違いよりもむしろ、人間としての共通の属性を現実のものとする場所となるに違いないように思われる。



インディアンが私たちに教える事ができるもの

19世紀から20世紀の間、白人のアメリカ人たちは、ほとんどのインディアン達の土地を手に入れるためにかねらわぬやり方で購入し、征服し、そして、詐取してきた。こうして、他の人達の土地を手にするのは自由であったという事を正当化するために、彼らは、永久にインディアン達を辺境の古めかしい立場に押し込みながら、“悪く運命づけられた、そして、消えゆくインディアン”という思想を展開してきた。

“catch-22 (逃れようのない不条理な状況)”



12才の Patrick Battees (Ojibwa) 議が、3000人の人達にまじってスポーツチームのマスコットとして、原住民アメリカ人の名前、シンボルを使う事に対して、1992年のミネアポリスでのスーパーボールで抗議をしている。

インディアンの人達から学ぶために、主流のアメリカ人たちは

彼らが執拗に持っている—政府、利益、進歩、少しだけ言うなれば、こうしたものの基本的な仮定に疑問を投げかける必要がある。

アメリカ人達は、多分、インディアンの人達、彼ら自身から小さなヒントをつかむことができる。それぞれの北アメリカの部族の殆どが魔術師であることの話を持っている。あるときは、その魔術師はヨコーテであり、また、あるときは蜘蛛であり、またあるときは、得体の知れない存在である。彼は、とらえどころのない性質で、ぼんやりとした自分の姿を变幻自在に変える者で、自然と性的なエネルギーを身に付けていた。



インディアン of 馬 by Jaune Quick-to-See Smith Arthur Amiotte
(Cree-Flatheat-Shoshone), 1966

私の生活の半世紀で、私はとてもひどい貧困、粗末な健康福祉、文化の喪失、国の平均の二倍にもなる道徳の悪さの程度、アメリカでもっとも高い自殺の割合、そして、80%にもなる失業率を目撃してきた。しかし、今日では、部族の生活には新たに目覚めた誇りと興味があり、そして、私たちの社会には、新しい活力がある。わたしは、自分たちの部族の中に、活動力と、決断と、そして、展望を見る……私の芸術、私の生活体験、そして、わたしの部族の中での結びつきは、全体で網に絡まったようになっている。私は、一つの社会から、他の人のところに言い伝えを持って行き、そして、話をし、人々を啓発しようと思う。私の絵画、そして、私の描画は泉の一部なのだ。それらは、私の意思の表明なのだ。

— JAUNE QUICK-TO-SEE SMITH

魔術師は、



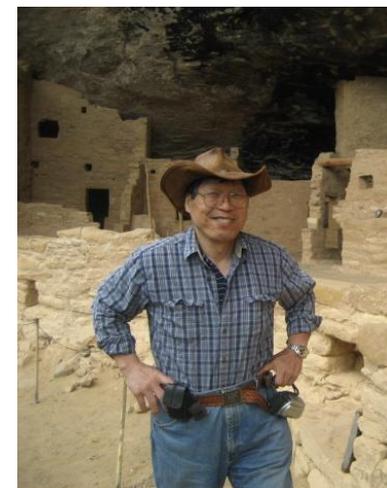
動物の本質である血の通った肉体をものともしないばかりでなく、彼はまた、我々が世界を理解するために使っている精神的なカテゴリーについても拒絶している。

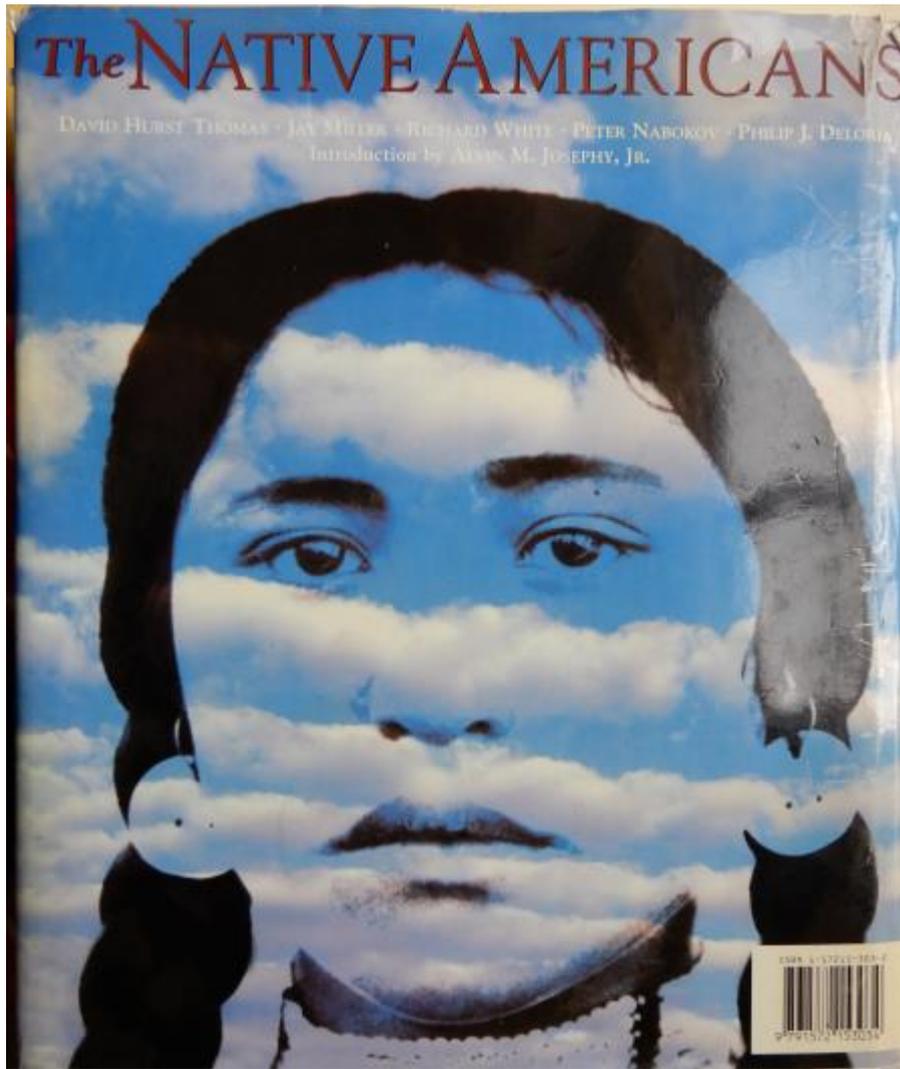
愚かさと賢さ、悪し様に言われることと尊敬されること、危なさとお骨さ、魔術師は世界が混沌としており、そして、お互いに矛盾したところであると啓示している。

彼は、我々、全ての者が共通して持っているもの—生活そのもの、なのである。

もし、インディアンの人達が、アメリカ人に対して素晴らしい授業をするなら、それは、しっかりと握って離さない理解の厳格な範疇の、そして、不確かさと確信の両方に対する必要性の、さらには、今後とも決して変化を止めない世界の中の“伝統”の持つ真の意味の、こうしたものの不可能性について話している、魔術師の歴史によりもたらされるのだ。

TRIBES BY CULTURE AREA AND LANGUAGE FAMILY





右 Indian Center Museumで
出会った少女 (2008.03.23)



Thank You

2019.08.31

Seiji Suzuki